

国民への普及啓発に関するこれまでの検討会における主な意見と論点①

第4回 人生の最終段階における医療の普及・啓発の在り方に関する検討会

資料

平成 30 年 1 月 17 日

1-2

【自分自身がよりよい最期を実現するために、自分事として「話し合うこと」を実行してもらう視点】

<意見>

1. 普及啓発の対象・時期

- ・ 対象を広げすぎのではなく、まずはある一定程度の年齢を過ぎた方に対して、将来について考え、周りの人と話し合ってもらうことが重要なのではないか。
- ・ 単身者が増えてきているが、意思表示支援ができていないのではないか。家族以外も含めて話し合い、意思表示できる環境を整える事が必要である。等

2. 普及啓発の内容

- ・ 何回も繰り返し話し合うこと、変わってもよいことを伝えることが必要である。
- ・ 自分の病気や治療方法についてしっかりと知ることも大切である。
- ・ 最初から医療のことを決めずとも、「〇〇を食べたい」「どのように暮らしたい」といった日々の生活の希望から考えることも有効である。
- ・ 自身の希望を共有していないことによって、周りの意見(遠くの親戚等)で自身の希望が叶えられない時があることに留意すべき。
- ・ まずは自分の大切な人と、十分に話し合っておくことが重要である。等

3. 普及啓発の方法

- ・ 話し合いのきっかけを作るツールの普及が必要である。
- ・ パンフレット等をただ作成し配付するよりも、配布時に手渡しにて説明することが、より実施につながるのではないか。
- ・ ある一定程度の年齢になったら話し合うことが重要。高齢者健診の場なども周知に活用してはどうか。
- ・ 信頼できるかかりつけ医と一緒に考え、話し合い、記録に残すことも重要である。等

<論点>

- ① 一定の年齢に達した方が、人生の最終段階に自らが受ける医療の在り方について、具体的に考えるようにするにはどのような普及啓発策が有効か。
- ② 一定の年齢に達した方が、信頼できる家族・友人等と人生の最終段階の医療について話しやすい環境を作っていくには、その普及啓発の手段も含め、どのような対策が必要か。
- ③ 一定の年齢に達した方に対して行う普及啓発については、どのような内容を含めるべきと考えるか。

国民への普及啓発に関するこれまでの検討会における主な意見と論点 ②

【身近にいる大切な人の希望を支えるために、「話し合うこと」を実行してもらう視点】

<意見>

1. 普及啓発の対象・時期

- ・人生の最終段階に置かれている人だけでなく、今後親の介護・病気に関わるサラリーマン世代やそれより若い子ども・若者についても、話し合うことの重要性を知ってもらうこと、考えてもらうことが必要である。 等

2. 普及啓発の内容

- ・本人と信頼できる人、身近な医療者とが繰り返し話し合っていくことが重要ということ、国民に伝えることが必要である。
- ・若い人や健康な人もいずれは高齢化し、必ず自分自身や身近な人に起こりうる話であることを伝えることも重要である。
- ・医療者が主導するのではなく、家族等や大切な人と話し合うことがよい。
- ・教育の場面でも「死」について話し合われること、教育されることはほとんどない。ベースが無い中でいきなり人生の最終段階について話し合おうと思っても難しいのではないか。
- ・自身の希望を共有していないことによって、周りの意見(遠くの親戚等)で自身の希望が叶えられない時があることに留意すべき。(再掲) 等

3. 普及啓発の方法

- ・文化を創り上げていくために、学校教育や大学教育の基礎教育、企業研修等を活用してはどうか。
- ・層別化して考えることが必要。まずは自身の人生について考えること、それを伝える大切な人についてイメージしてもらうキャンペーンを行うことが必要ではないか。
- ・ドラマやテレビの活用、マスコミやSNS等、国民全員が考える日の設定などを検討してはどうか。 等

<論点>

- ① 自らの人生の最終段階への意識・関わりがまだ小さい方について、世代や属性ごとに普及啓発の方法を考えるべきではないか。また、ライフイベント(結婚、出産、介護保険加入、退職等)に合わせた普及啓発方法が考えられるのではないか。
- ② 世代や属性、ライフイベントごとに、どのような内容の普及啓発を、どのような方法で講じることが有効と考えられるか。例えば、学校や企業に協力してもらうことも有効ではないか。
- ③ 「話し合うこと」や「信頼できる人を決めておくこと」(いわゆるACP)により、自分の大切な人がよりよい人生の最期を迎えるために重要であることを、分かりやすく、イメージしやすい言葉で伝えることが必要ではないか。

国民への普及啓発に関するこれまでの検討会における主な意見と論点③

【広く医療・介護従事者にサポートを行ってもらう視点】

<意見>

- ・患者が自分の意思を示すプロセスが大切である。繰り返される意思表出支援等が文言として適しているのではないか。
- ・意思を決定させるためだけの支援になってはいけない。患者と医療従事者は上下関係になりやすい。患者に近い周囲の方も巻き込んで決めていくことで、より決めやすくなるのではないか。
- ・患者や家族の心は常に揺れている。治療の中で想いも変わってくる。その常に心がかわるという前提に持つことが大切。揺れる心も含めて支援することも大切な支援である。
- ・かかりつけ医のACP普及がまずは大切だと思う。提供者側への普及啓発を行うことが、国民への普及啓発につながる。
- ・信頼できるかかりつけ医と一緒に考え、話し合い、記録に残すことも重要である。
- ・病気になったときなど、医療・介護従事者等と一緒に具体的な医療・ケアについて考えていくことも必要である。
- ・看護や介護職、相談員が大切な情報を持っていることがある。フラットに話し合える環境が必要である。 等

<論点>

- ① 患者に対して適切に人生の最終段階における医療の在り方を考える支援を、医療・介護従事者に行ってもらえるようにしていくため、どのような普及啓発が有効か。特に、意思表出支援も含め、患者への適切な意思決定支援を行ってもらうためにはどうすればよいか。
- ② 患者の人生の最終段階を支える職種ごとに有効な普及啓発策はあるか。
- ③ 着実に、患者や家族等に対し、医療・ケアチームが、適切な意思決定支援を行ない、その取組を広めていくためには、知識や技術の向上を図っていくことが必要であり、行政や専門職団体等に対して、「人生の最終段階における意思決定支援に関する研修」の開催などの協力を求めることも必要ではないか。